

授業科目名	基礎民法 I Basic Civil Law I
授業科目群	法律基本科目
標準学年	1年次
必修・選択の区別	必修
開講学期	前期
開講曜日・時限	月曜日・4時限
単位数	2単位
担当教員名	赤松秀岳 (Akamatsu Hidetake)
授業の目的	基礎民法 I は、同IVとともに、1年次前期の民法の授業を担います。基礎民法 I では、主として民法総則の領域について、他学部や社会人出身者などの受講者もおられることを念頭に置き、概説講義により基本的知識を習得することも目標としますが、それにとどまらず、さらに具体的な【設問】をめぐる討論を取り入れることより、知識をより確実なものとし応用能力の素地を養成します。もともと、他方で全体で15回という時間の制約があり、教場で取り上げることのできる事柄は限定されるので、基本の習得のため、受講者の自学自修の積極的な努力(繰り返しの基本書の読書)が求められます
履修条件	とくにありません。
到達目標	カリキュラムマップ、到達目標科目対応表及び学修ロードマップを参照のこと。
授業の概要	<p>民法総則分野は、民法全体の中でも特に財産に関する法の通則を定めているといわれます。民法(市民の法)の世界では、人間関係を当事者間の権利と義務の関係として理解します。そして、われわれの市民生活(一例を挙げると家を借りる、ものを購入する、あるいは事故に遇う)は、民法の世界では、当事者間の権利義務の変動(発生、変更、消滅。上記の場合は、それぞれ、賃貸借契約、売買契約、不法行為による)として理解されます。民法の通則である、民法総則の分野においては、このような権利義務の当事者(主体)となることができる自然人(個人)と法人を取り上げます。また、当事者間の権利義務の変動をもたらす原因として最も重要なものは契約ですが、契約を中心とする法律行為・意思表示の問題も取り上げます。とくに、実際上も理論上も重要な、法律行為の代理については、詳しく検討します。さらに、権利義務の変動(発生・消滅)をもたらす制度として時効の問題も扱います。</p> <p>It will be told on the part of general theory in Civil Code in socratic methode, also considered the most important cases and pratitce.</p>
授業計画	第1回 権利の主体と客体 第2回 契約の成立と有効性 第3回 契約の効力と消滅 第4回 意思表示1 第5回 意思表示2 第6回 行為能力と意思能力 第7回 条件、期限 第8回 代理1 第9回 表見代理1 第10回 表見代理2 第11回 無権代理 第12回 表見代理と無権代理 第13回 法人

	第14回 時効1 第15回 時効2
授業の進め方	事前に教材を配布します。そこには、授業で扱う事柄の項目と、参考判例、教科書・参考書の箇所、【設問】が示されています。受講者各位の予習(後述の「事前学習」を参照)を前提に、まず、概説講義がなされます。さらに、参考判例および【設問】について、受講者との間で質疑応答がなされます。このように概説講義と双方向・対話型授業とのバランスをとって、授業を進行させていきたいと思えます。(全体で各受講者と一回ずつ【設問】に即して双方向・対話型のやり取りをします。その順番、どの【設問】が対象となるかなどについては、第1回目の授業の際に連絡します)。
教科書及び参考図書等	①内田貴『民法 I [第4版]総則・物権総論』(東京大学出版会、2008年)(教科書)、 ②別冊ジュリスト『民法判例百選 I 総則・物権法 第7版』(有斐閣、2015年)(教科書) また、必要に応じて、予習・復習用の資料を配布します。
試験・成績評価等	単位認定は、期末試験(60%)と、授業プロセスでの評価(40%)の総合によって行います。 授業プロセスでの評価としては、論述式小テスト(20%程度)、そのほか知識の定着を確認するため実施する短答式小テスト(10%程度)、参考判例や【設問】をめぐる質疑などの発言(10%程度)により、評価します。なお、教育プロセスを重視するのが、法科大学院教育ですので、欠席と遅刻は、マイナス評価として、減点の対象となります(欠席1回について1ポイント、遅刻は3回で1ポイントを基準とします。欠席の扱いについてはそのほかは便覧の『成績評価の方法』に従います)。 以上の素点を基に、相対評価(優以上:3割、良:4割)にも配慮して最終の成績評価がなされます。
事前学習	論述式小テスト(30分程度)を実施し、評価の対象に含めます。これは、自分の考えを文書で、疑義なく正しく伝えるという法曹としての不可欠の能力を養成するための一助でもあります(ライティング能力の養成と授業理解の確認も兼ねて、評価と必要ならばコメントを付して、返却します)。また、知識の定着と自主的な学修の促進のため、短答式小テストを抜き打ちで実施します(平均すると授業2回あたり1回程度、全体で7~8回程度を予定)。
課題レポート等	
オフィスアワー	時間: 火曜日18:30~20:00(予定) 場所: 研究室
その他	上記の授業計画は、予定です。教育効果の点から、順序を入れ替えることがあります。第1回目に確定し全体の授業日程表(もしもその時点で判明している休講および補講の予定があれば、それを織り込んだもの)を配布します